

管 內 情 勢

## 管 内 情 勢

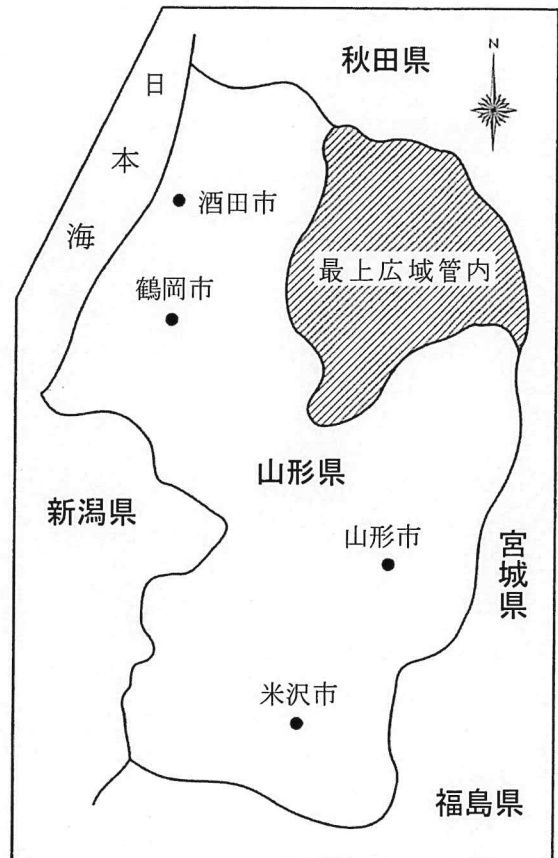
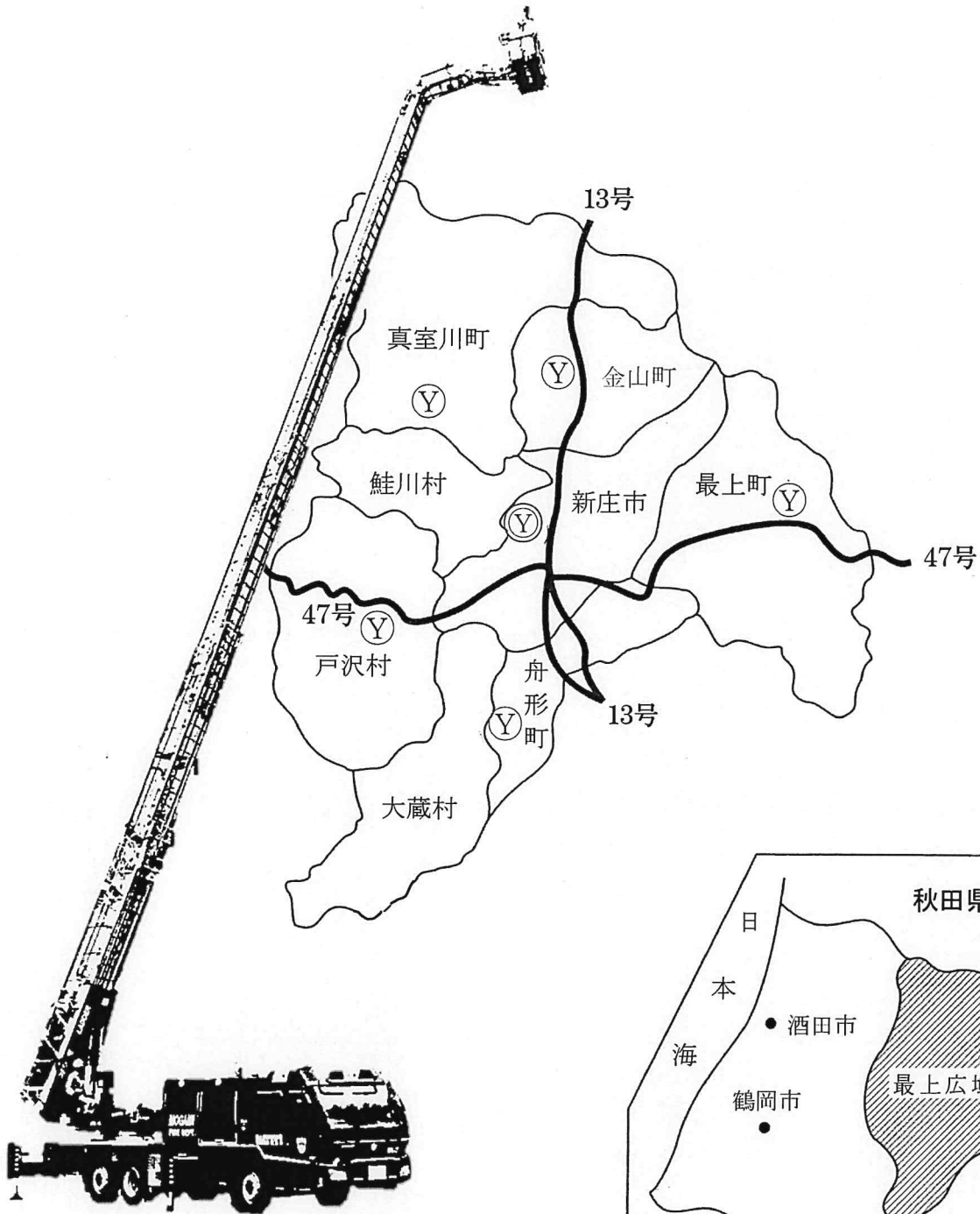
(R2. 4. 1)

区分 市町村	人 口 (人)	世 帯 数 (世帯)	面 積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人)	消防職員数 (人)	ポンプ車数 (台)	救急車数 (台)
管内合計	73,715	27,168	1,803.64	40.9	117	9	7
新 庄 市	35,351	14,002	224.00	157.8			
金 山 町	5,406	1,758	162.00	33.4			
最 上 町	8,476	2,856	330.37	25.7			
舟 形 町	5,234	1,860	119.00	44.0			
真 室 川 町	7,528	2,690	374.00	20.1			
大 蔵 村	3,170	1,053	211.13	15.0			
鮭 川 村	4,151	1,351	122.14	34.0			
戸 沢 村	4,399	1,598	261.00	16.9			

### 最上広域市町村圏事務組合消防機関

名 称	所 在 地	市外 局番	電話番号	郵便番号
最上広域市町村圏事務組合 消 防 本 部	新庄市金沢字中村 1279-1	0233	22-7521	996-0002
消 防 署	新庄市金沢字中村 1279-1	0233	22-7521	996-0002
北 " 消 防 署 署	最上郡真室川町大字新町字上荒川 126-3	0233	62-2153	999-5312
南 " 支 署	最上郡舟形町長者原字福寿野 1436-150	0233	32-2101	999-4602
東 " 支 署	最上郡最上町大字本城字ヤウカエ 413-3	0233	43-2008	999-6104
西 " 支 署	最上郡戸沢村大字蔵岡字上ノ山 3718-1 の一部	0233	72-2308	999-6402
金 山 " 支 署	最上郡金山町大字金山字上野 869-6	0233	52-2913	999-5402

# 最上広域市町村圏事務組合管内図及び消防機関配置図



凡 例	
—	市 町 村 境
—	主 要 国 道
Ⓨ	消 防 本 部 及 び 消 防 署
Ⓨ	消 防 支 署

## 最上広域市町村圏事務組合消防の沿革

昭和45年10月、最上広域市町村圏事務組合設立許可申請書(地方自治法第284条第1項)を県知事に提出、昭和45年11月12日、指令地第12454号にて設立について許可設定され、昭和46年4月1日、最上広域市町村圏事務組合(新庄市及び最上郡内7町村)消防本部・消防署が発足し、昭和46年6月1日付、政令指定「170号」を受けた。

消防本部、消防署の発足に伴い、新庄市消防本部、消防署に勤務していた消防職員39名が、昭和46年4月1日付で組合消防本部、消防署職員を拝命、他に消防職員35名を新規採用し、消防庁舎、消防車両及び救急車両、消防機械器具、各種装備品等は、新庄市消防本部、消防署に配備されていたものを組合に無償で貸与及び譲渡され、組合消防業務を開始した。

以下、主たる変遷は次のとおりである。

### 〈46年度〉

- 消防職員35名、事務職員1名を採用する。(総員75名)
- 山形県消防学校に教官として職員1名を派遣する。(6ヶ月間)
- 査察車(トヨタランドクルーザー)を購入、消防本部に配備する。
- 第3回全国消防救助技術大会に3名出場する。(柏崎市)
- 消防審議会を設立する。(昭和46年9月条例第20号)
- 消防本部庁舎増改築工事竣工(329㎡)
- 通信指令室にFXB106型A自動交換機一式、内線電話19台を配備する。
- 日本損害保険協会より、救急自動車(ニッサンシブリアン3B型、GC240P型)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。
- 通信指令室に一斉指令装置(ゼネラルHA-301B)を整備する。

### 〈47年度〉

- 消防職員35名を採用する。(総員110名)
- 山形県消防学校に教官として職員1名を派遣する。(8ヶ月間)
- 管内7町村の救急業務を開始する。
- 管内7町村の救急業務政令指定を受ける。(政令214号)
- 消防分署(7町村)竣工。各分署8名配置で発足(48年12月より10名に増員)、業務を開始する。
- 消防ポンプ自動車(BD-1型2台・BS-1型2台)4台を購入、消防分署(真室川・鮭川(BD-1型)、舟形・最上(BS-1型))に配備、他の3消防分署(金山・戸沢・大蔵)は、各町村より無償貸与を受け配備する。
- 消防用無線機、基地局7台、陸上移動局7台を購入、各消防分署に配備する。

〈48年度〉

- 消防職員33名を採用する。(総員142名)
- 指令車(ブルーバードバン1,600cc)を購入、消防本部に配備する。
- 日本消防協会より、広報車(三菱シビリアンAV53V)の寄贈を受け、消防本部に配備する。
- 山形県共済農業協同組合連合会より、救急車(ニッサンシビリアンGC240P型3B型)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。
- 消防ポンプ自動車(ニッサンFH60、BD-1型)2台を購入、各町村より無償貸与を受けていた金山消防分署、戸沢消防分署に配備する。
- 消防大学校警防科(第10期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈49年度〉

- 消防職員3名を採用する。(総員144名)
- 消防本部・消防署の機構改革を実施、従来の係制及び班制から課制に移行する。(消防本部3課、消防署2課)
- 4月26日、大蔵村赤松地区で山崩れ事故が発生、甚大な被害をもたらす。(死者17名、負傷者16名、被災世帯20世帯)
- 小型動力ポンプ(トーハツC-1級)7台を購入、各消防分署に配備する。
- 8月、県北集中豪雨により、新庄市街地等に甚大な被害をもたらす。
- 新庄ライオンズクラブより、広報車(スバルレオーネバン、四輪駆動)の寄贈を受け、消防本部に配備する。
- 消防大学校警防科(第12期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈50年度〉

- 大崎地域広域行政事務組合との間に消防相互応援協定を締結する。
- 南部出張所(松本)を閉鎖する。
- 県北集中豪雨(8月6日)により、土砂崩れや河川氾濫、大滝駅構内における列車転覆事故など各所に甚大な被害をもたらす。(死者5名、重軽傷者27名、家屋の全半壊92棟、床上浸水188棟、床下浸水422棟)
- 山形県共済農業協同組合連合会より、救急自動車(ニッサンシビリアンGC240P型3B型)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。
- 大崎地域広域行政事務組合との消防相互応援協定の締結に伴い、全国共通波(150、73MHz)を増波し、消防無線電話送受信機(ゼネラルCM-5521AC基地局用)1台を購入、最上消防分署に配備する。
- 消防用無線機・陸上移動局(ゼネラルCM-5519、10W)1台を購入、消防本部に配備する。

- 消防用無線機・車載携帯局(ゼネラルCM-5521、10W)1台を購入、消防本部に配備する。
- 消防大学校予防科(第19期)に職員1名入校する。(3ヶ月間)

〈51年度〉

- 本組合管理者の消防長兼務を解き、消防本部次長が消防長に就任、広域消防発足来、初の専任消防長が誕生する。
- 消防ポンプ自動車(ニッサンFH60、BD-1型、森田)を購入、新庄消防署に配備する。
- 職員の体力及び救助技術の向上を図るため、新庄消防署屋上に救助訓練施設を設置する。
- 可搬型移動式アンテナ(八木八素子、単一指向性)一式を購入、消防本部に設置する。
- 消防無線機・車載携帯局(ゼネラルCM-5521、10W〈2台〉、日本電気ATR-150M-18、10W〈2台〉)4台を購入、金山、真室川、大蔵、最上の各消防分署に配備する。
- 消防大学校本科(第33期)に職員1名入校する。(6ヶ月間)
- 消防大学校救急科(第9期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

〈52年度〉

- 山形県消防学校に教官として、職員1名を派遣する。(6ヶ月間)
- 県内全市町村並びに一部事務組合の消防相互応援協定を締結する。
- 無線制御卓(ゼネラル4系統制御)1台、消防用無線機・陸上移動局(ゼネラルCM-5519、10W)3台を購入、新庄消防署に配備する。また、消防用無線機・車載携帯局(ゼネラルCM-5521P、10W)3台を購入、戸沢、舟形及び鮭川の各消防分署に配備する。
- 日本損害保険協会より、消防ポンプ自動車(トヨタFJ56F、BD-1型、森田)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。
- 日本損害保険協会より、救急自動車(ニッサンシビリアン3B型GC340)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。
- 消防ポンプ自動車(ニッサンFH60、BD-1型、森田)を購入、大蔵村より無償貸与を受けていた大蔵消防分署に配備する。
- 任期満了に伴い、組合管理者の交代が行われる。  
(旧)管理者 高橋喜一郎氏(新庄市長)昭和52年12月9日付(任期満了)  
(新)管理者 押切 朝吉氏(新庄市長)昭和53年1月20日付

〈53年度〉

- 消防職員7名を採用する。(総員145名)
- 山形県広域消防相互応援協定を締結する。
- 消防用無線機・陸上移動局(ゼネラルCM-5521M、10W)1台、車載携帯局(ゼネラルCM-5521M、10W)2台を購入、新庄消防署に配備する。

○消防大学校警防科(第21期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈54年度〉

○新庄消防署の次席制を廃止し、副署長制とする。

○救急車の本署集中配備体制を改め、真室川、戸沢及び最上の各消防分署を拠点として分散配備し、各々3名の職員を増員する。(本署及び他消防分署より異動配置)

○日本消防協会より、救急自動車(トヨタH-RH3V2B型)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。

○山形県消防協会最上支部消防操法大会(第1回)を実施する。

○山形県消防協会最上支部総合防災訓練(第1回、林野火災防禦)を最上町国際スキー場において実施する。

○消防大学校上級幹部科(第21期)に職員1名入校する。(1ヶ月間)

〈55年度〉

○消防長の署長兼務を解き、消防本部総務課長が署長に就任する。

○新庄市大字金沢字中村地内に消防庁舎建設用地(6,677㎡)を取得する。

○救助工作車(いすゞフォワード)を購入、新庄消防署に配備する。

○消防用無線機・陸上移動局(ゼネラルCM-5521M、10W)2台、携帯局(ゼネラルCP-541、5W)2台を購入、新庄消防署に配備する。

○消防大学校救急科(第17期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈56年度〉

○秋田県湯沢雄勝広域市町村圏(組)と消防相互応援協定を締結する。

○新庄市大字金沢字中村1279番地1に消防本部・消防署を建設する。

(完成3月31日、事務所棟・鉄筋コンクリート2F、車庫棟・鉄骨造1F、1399.7㎡)

○屈折はしご付消防ポンプ自動車(三菱ふそうK-FP318J、16M、森田式)を購入、新庄消防署に配備する。

○日本損害保険協会より、救急自動車(トヨタ2B型)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。

○消防用無線機・陸上移動局(ゼネラルCM-5521M、10W)2台、携帯局(ゼネラルCP-543、5W)3台を購入、新庄消防署に配備する。

○任期満了に伴い組合管理者の交代が行われる。

(旧)管理者 押切 朝吉氏 (新庄市長)昭和56年12月2日付(任期満了)

(新)管理者 高橋 喜一郎氏 (新庄市長)昭和56年12月26日付

○消防大学校救助科(第5期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈57年度〉

- 5月1日、新庁舎に移転、業務を開始する。5月20日新庁舎竣工式を実施する。
- 広報車(トヨタカローラ)を購入、消防本部に配備する。
- 日本消防協会より、広報連絡車(三菱ギャランシグマ)の寄贈を受け、消防本部に配備する。
- 7月1日、山形県消防協会最上支部事務局が、最上地方事務所総務課より消防本部に移管される。

〈58年度〉

- 広報車(トヨタカリーナ)を購入、消防本部に配備する。
- 救急自動車(トヨタH-RH3V2B型)を購入、新庄消防署に配備する。
- 日本損害保険協会より、救急自動車(トヨタH-RH3V2B型)の寄贈を受け、真室川消防分署に配備する。
- 消防用無線機・陸上移動局(ゼネラルCM-5521M、10W)2台、携帯局(ゼネラルCP-543U、5W)8台を購入、新庄消防署に配備する。
- 消防大学校警防科(第31期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈59年度〉

- 最上広域市町村圏事務組合議会消防体制検討特別委員会を開く。
- 広域管内119番通報を消防本部指令室で集中管理する。
- 水槽付消防ポンプ自動車(三菱ふそう1,900ℓ)を購入、新庄消防署に配備する。
- 消防大学校警防科(第34期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈60年度〉

- 消防長退職に伴い、消防次長が消防長に就任する。
- 複数副管理者制度が発足する。
- 本組合議会消防体制検討特別委員会の検討結果が組合議長に報告される。
- 消防大学校救急科(第28期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈61年度〉

- 消防ポンプ自動車(三菱P-FG335B(改)4WD、移動局10W付)2台を購入、舟形消防分署、最上消防分署に配備する。消防用無線機・基地局4局、陸上移動局3局を購入する。
- 日本消防協会より、防火広報車(トヨタハイエース)の寄贈を受け、消防本部に配備する。
- 日本損害保険協会より、救急自動車(いすゞN-WFS51FVH(改)4WD)の寄贈を受け、新庄消防署に配備する。
- 広報連絡車(ダイハツ、S81V4WD)2台を購入、真室川消防分署、最上消防分署に配備する。
- 消防大学校警防科(第39期)に職員1名を入校する。(2ヶ月間)

〈62年度〉

- 消防職員3名を採用する。(総員132名)
- 山形県消防学校に教官として職員1名を派遣する。(9ヶ月間)
- 消防ポンプ自動車(三菱P-FG335C(改)4WD、移動局10W付)2台を購入、新庄消防署、鮭川消防分署に配備する。消防用無線機・基地局2台、陸上移動局2台、携帯局1台を購入する。
- 広報連絡車(スバルMKR2(改)4WD)を購入、戸沢消防分署に配備する。
- 消防大学校救急科(第32期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈63年度〉

- 消防長退職に伴い、事務局次長が消防長に就任する。
- 消防支署設置に伴い一部名称変更
  - 中央消防署
  - 北消防支署(真室川町、鮭川村管轄)
  - 西消防支署(戸沢村、大蔵村管轄)
  - 東消防支署(最上町管轄)
- 消防職員5名を採用する。(総員134名)
- 消防ポンプ自動車(三菱P-FG335C(改)4WD、移動局10W付)2台を購入、西消防支署、金山消防分署に配備、消防用無線機・陸上移動局3台、携帯局4台を購入する。
- 日本自動車工業会より、救急自動車(トヨタ2B型LH66V-VNE(改)4WD)の寄贈を受け、中央消防署に配備する。
- 消防大学校救助科(第19期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)
- 消防大学校上級幹部科(第37期)に職員1名入校する。(1ヶ月間)

〈平成元年度〉

- 消防職員4名を採用する。(総員133名)
- 酒田地区消防組合と山形県広域消防相互応援協定に伴う火災・救急に関する覚書を締結する。
- 小型動力ポンプ付水槽車10T(いすゞP-CXGL9Q(改)移動局10W付)を購入、中央消防署に配備、消防用無線機・基地局1台、陸上移動局1台、携帯局3台を購入する。
- 財団法人日本消防協会より、電源照明車資機材等搬送車(ニッサンアトラスM-PGF22)の寄贈を受け、中央消防署に配備する。
- 管理者 高橋喜一郎氏(新庄市長)が平成元年12月2日、任期満了に伴い退任する。  
副管理者 岸宏一氏(金山町長)が「管理者職務代理者」に12月3日付で就任する。
- 消防大学校予防科(第46期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

〈平成2年度〉

- 消防職員2名を採用する。(総員131名)
- 平成2年4月1日、本組合が管理者制(一部事務組合)から理事会制(複合事務組合)に移行し、高橋榮一郎氏(新庄市長)が初代理事長に就任する。
- 消防ポンプ自動車(三菱U-FG337C(改)移動局10W付)を購入、北消防支署に配備、消防用無線機・陸上移動局1台、携帯局3台を購入する。
- 人員及び資機材搬送車(トヨタハイルーフDX、U-H2B30-MDZ)を購入、中央消防署に配備する。
- 消防大学校警防科(第48期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成3年度〉

- 消防職員3名を採用する。(総員132名)
- 消防ポンプ自動車(三菱U-FG337C(改)移動局10W付)を購入、大蔵消防分署に配備、消防用無線機・陸上移動局1台、携帯局3台を購入する。
- 消防大学校救助科(第25期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成4年度〉

- 消防職員3名を採用する。(総員132名)
- 山之内製薬より、救急自動車(ニッサンU-VRMGE24(改)4WD)の寄贈を受け、東消防支署に配備する。
- 消防緊急通信指令施設(Ⅱ型)を本部通信指令室に整備する。
- 消防大学校警防科(第51期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成5年度〉

- 消防長退職に伴い、消防署長が消防長に就任する。
- 週休二日制の実施に向けて、消防職員13名を採用する。(総員142名)
- 救急自動車(いすゞU-WFS62FVH(改)4WD)を購入、北消防支署に配備する。
- 消防ポンプ自動車(三菱U-FG337C改)を購入、中央消防署に配備する。
- 一人暮らし老人等の福祉の増進を図るため、災害弱者緊急通報システム事業(やすらぎ電話)を導入、平成5年10月25日開通記念式典をおこない業務を開始した。
- 救急救命士の国家資格を取得するため、職員1名を救急救命東京研修所(第5期)に派遣する。
- 第22回全国消防救助技術大会(はしご登はんの部)に1名出場する。
- 消防大学校警防科(第54期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成6年度〉

- 山形県消防学校に教官として職員1名を派遣する。(1年間)
- 救急自動車(トヨタM-LH12PS、4WD)を購入、中央消防署に配備する。
- 救急業務の高度化を図るため、高度救急処置用資機材を購入、中央消防署に配備する。
- 指令車(トヨタマークⅡ2,500cc)を購入、消防本部に配備する。
- 救急救命士の国家資格を取得するため、職員1名を救急救命東京研修所(第7期)に派遣する。
- 消防大学校予防科(第57期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成7年度〉

- 消防職員2名を採用する(総員139名)。
- 広報車(三菱パジェロ3,000cc)を購入、消防本部に配備する。
- 最上地区各農業協同組合及び山形県共済農業協同組合連合会より、救急自動車(ニッサンKC-VRMGE24改)の寄贈を受け、大蔵消防分署に配備する。
- 全国消防救助技術大会(北九州市)において「ほふく救出の部」に出場、入賞する。
- 救急救命士の国家資格を取得するため、職員1名を救急救命東京研修所(第9期)に派遣する。
- 消防大学校警防科(第58期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成8年度〉

- 消防職員4名を採用する(総員143名)。
- 消防組織法第14条の5に基づき、「本組合消防職員委員会に関する規則(平成8年10月1日)」を定める。
- 地図等検索装置及び全自動自家発電装置を整備する。
- 8月11日、宮城・秋田県境付近を震源とするマグニチュード5.9の地震(宮城県北部地震)が発生、被害は最上町に集中し、道路の破損、公共施設、一般住宅の天井落下やガラスの破壊、墓石の倒伏、その他農村地帯にも被害をもたらした。(負傷者12名 建物被害22棟 道路損壊12ヶ所)
- 救急救命士の国家資格を取得するため、職員1名を救急救命東京研修所(第11期)に派遣する。
- 消防大学校予防科(第60期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

〈平成9年度〉

- 国庫補助事業により高規格救急自動車を購入、中央消防署に配備、平成10年1月10日より運用開始する。
- 社団法人日本損害保険協会より、救助工作車(三菱ふそうファイター)の寄贈を受け、中央消防署に配備する。
- 広報車(トヨタマークⅡ2,500cc)を購入、消防本部に配備する。

- 救急業務の高度化を図るため、高度救急処置用資機材を購入、大蔵消防分署に配備する。
- 救急救命士の国家資格を取得するため、職員1名仙台市消防局救急救命研修所に派遣する。
- 消防大学校幹部研修科(第24期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

#### 〈平成10年度〉

- 山形県消防防災航空隊に隊員として職員1名を派遣する。(2年間)
- 救急自動車(トヨタKC KZH138Σ)を購入、西消防支署に配備する。
- 救急業務の高度化を図るため、高度救急処置用資機材を購入、西消防支署に配備する。
- 広報車(ダイハツV-S130V)2台を購入、北消防支署、東消防支署に配備する。
- 無線用鉄塔の老朽化のため、庁舎脇に完全自立型無線鉄塔(本体地上高36.3m)を建設する。
- 消防大学校警防科(第63期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

#### 〈平成11年度〉

- 水槽付消防ポンプ自動車(日野KK-GX1JGDA改)を購入(更新)、中央消防署に配備する。
- 救急自動車(トヨタGE-VCH28S)を購入(更新)、金山消防分署に配備する。
- 広報車(ホンダGJ-EY8)を購入(更新)、消防本部に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第17期)に職員1名派遣する。
- 消防大学校幹部研修科(第28期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

#### 〈平成12年度〉

- 山形県消防学校に教官として職員1名を派遣する。(2年間)
- 建設中の東消防支署庁舎が完成、9月7日から新庁舎での業務を開始する。10月24日に竣工式を実施する。
- 消防ポンプ自動車(三菱KK-FG53ED改)2台を購入(更新)、舟形消防分署、東消防支署に配備する。
- 広報車(トヨタRZ-LH188K)を購入(更新)、消防本部に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第19期)に職員1名派遣する。
- 消防大学校幹部研修科(第30期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

#### 〈平成13年度〉

- 消防長退職に伴い、消防次長兼消防署長が消防長に就任する。
- 消防ポンプ自動車(三菱KK-FG53ED)を購入(更新)、鮭川消防分署に配備する。
- 救急自動車(トヨタGE-VCH28S)を購入(更新)、北消防支署に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第21期)に職員1名派遣する。
- 消防大学校幹部研修科(第32期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

〈平成14年度〉

- 山形県消防防災航空隊に隊員として職員1名を派遣する。(3年間)
- 消防ポンプ自動車(三菱KK-FG73ED改)を購入(更新)、中央消防署に配備する。
- 全国消防救助技術大会(名古屋市)において「ほふく救出の部」に出場、入賞する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第23期)に職員1名派遣する。
- 消防大学校幹部研修科(第34期)職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

〈平成15年度〉

- 消防職員4名を採用する。(総員137名)
- 消防ポンプ自動車(三菱KK-FG73ED)を購入(更新)、金山消防分署に配備する。
- 山之内製薬より、高規格救急車(トヨタハイメディック)の寄贈を受け、北消防支署に配備する。
- 山形県緊急消防援助隊に救助隊を新規登録する。
- 全国消防救助技術大会(仙台市)において「梯子登はんの部」に出場、入賞する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第25期)に職員1名派遣する。
- 消防大学校救助科(第49期)に職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

〈平成16年度〉

- 消防長退職に伴い、消防次長兼消防署長が消防長に就任する。
- 消防職員3名を採用する。(総員137名)
- 消防ポンプ自動車(いすゞPB-NKS81N)を購入(更新)、西消防支署に配備する。
- 救命ボート(6人乗ゴムボート、船外機付)を購入、中央消防署に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第26期、第27期)に職員2名を派遣する。

〈平成17年度〉

- 緊急消防援助隊設備整備費補助金を受け、高規格救急車(日産パラメディック)を購入(更新)、中央署に配備する。
- 12月25日、庄内町において発生したJR東日本羽越線列車脱線事故において、救助隊、救急隊が出場、救助活動にあたる。(3月28日酒田地区消防本部において県内消防本部が消防庁長官褒状を授与する。)
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第29期)に職員1名を派遣する。
- 消防大学校幹部研修科(第40期)職員1名入校する。(2.5ヶ月間)

〈平成18年度〉

- 財団法人日本消防協会より、指令車(日産エクストレイル)の寄贈を受け、消防本部に配備する。
- 消防ポンプ自動車(三菱PA-FG73DD)を購入(更新)、北消防支署に配備する。
- 全国消防救助技術大会(札幌市)において「ロープ応用登はんの部」に出場、入賞する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第30期)に職員1名を派遣する。
- 消防大学校救助科(第54期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成19年度〉

- 消防長退職に伴い、消防次長兼総務課長が消防長に就任する。
- 消防職員4名を採用する。(総員137名)
- 東消防支署に無線遠隔制御装置を配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第33期)に職員1名を派遣する。
- 救急救命士の薬剤投与追加講習のため、救急救命九州研修所に職員1名を派遣する。
- 消防大学校予防科(第83期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成20年度〉

- 消防体制の再編について検討され、6署体制への方向付けが示される。
- 高機能消防通信指令センター(I型)の整備を行う。
- 岩手・宮城内陸地震及び岩手沿岸北部地震により、緊急消防援助隊として救助隊、救急隊、後方支援隊を派遣する。
- 全国消防救助技術大会(北九州市)において、「応用登はんの部」、「梯子登はんの部」に出場、入賞する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第35期)に職員1名を派遣する。
- 救急救命士の薬剤投与追加講習のため、救急救命九州研修所に職員1名を派遣する。

〈平成21年度〉

- 消防署所を8署体制から6署体制に再編することに伴い、「本組合消防本部及び消防署の設置等に関する条例」の一部改正が図られる。
- 高機能消防通信指令センター(I型)が4月1日より運用開始される。
- 統合署を舟形町福寿野地区に建設する。(着工 平成21年9月16日、完成 平成22年3月19日、鉄筋コンクリート造 1F 397.035㎡)
- 緊急消防援助隊北海道・東北ブロックの訓練が鶴岡市において開催され、指揮支援隊、消火隊、救急隊が参加する。
- 救急救命士の薬剤投与追加講習のため、救急救命九州研修所に職員1名を派遣する。

○救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第37期)に職員1名を派遣する。

○消防大学校警防科(第85期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成22年度〉

○平成22年4月1日、消防署所を8署体制から6署体制に再編。舟形消防分署と大蔵消防分署を統合し、鮭川消防分署を廃止する。また、署所の名称を次のように改める。

旧	新
中央消防署	消防署
北消防支署	北支署
舟形・大蔵消防分署の統合署	南支署
東消防支署	東支署
西消防支署	西支署
金山消防分署	金山支署
鮭川消防分署(廃止)	

○消防長退職に伴い、消防次長兼総務課長が消防長に就任する。

○消防職員10名を採用する。(総員123名)

○4月12日、南支署の竣工式を実施する。

○はしご付消防自動車(30m級・先端屈折式・モリタ、日野LDG-PR1APBF)を購入(更新)、消防署に配備する。

○広報車(ダイハツEBD-S331V)を購入、南支署に配備する。

○平成23年3月11日、M9.0の東北地方太平洋沖地震が発生、大津波により未曾有の大災害(東日本大震災)となった。被災地の岩手県に緊急消防援助隊として、救助隊、救急隊、消火隊、後方支援隊を第1次から第6次まで、延べ14隊、46名を派遣する。

○救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第38期・第39期)に職員2名を派遣する。

○救急救命士の薬剤投与追加講習のため、救急救命九州研修所に職員1名を派遣する。

〈平成23年度〉

○消防職員14名を採用する。(総員123名)

○消防本部車庫棟(延べ面積279㎡)を消防署西側に新築する。

○水槽付消防ポンプ自動車(積載水量2,000ℓ CAFS付)を購入、消防署に配備する。

○救助支援車(最大積載量2,750kg)を購入、消防署に配備する。

○高規格救急自動車(トヨタハイメディック)2台を、山形県補助金で南支署と東支署(更新)に配備する。

- 高規格救急自動車(日産パラメディック)1台の寄贈を受け、消防署に配備する。
- 平成27年度の消防無線デジタル化に向け、山形県消防救急デジタル無線基本設計を実施する。
- 山形県において、ドクターヘリの平成24年12月就航を目指して準備委員会を開催する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第40期・第41期)に職員2名を派遣する。
- 救急救命士の薬剤投与追加講習のため、救急救命九州研修所に職員を派遣する。

〈平成24年度〉

- 消防長退職に伴い、総務課長が消防長に就任する。
- 消防職員16名を採用する。(総員124名)
- 北支署の竣工式を実施する。
- 高規格救急自動車(トヨタハイメディック)2台を、西支署と金山支署(更新)に配備する。
- 山形県において、ドクターヘリの平成24年12月就航を目指して準備委員会を開催する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第42期・第43期)に職員2名を派遣する。
- 救急救命士の薬剤投与追加講習のため、救急救命九州研修所に職員1名を派遣する。

〈平成25年度〉

- 消防長退職に伴い、消防次長兼消防署長が消防長に就任する。
- 消防職員12名を採用する。(総員124名)
- 救助工作車Ⅱ型(日野GX-7JGA)を購入(更新)、消防署に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第44期・第45期)に職員2名を派遣する。
- 救急救命士の薬剤投与追加講習のため、救急救命九州研修所に職員1名を派遣する。

〈平成26年度〉

- 消防職員10名を採用する。(総員124名)
- 金山支署の竣工式を実施する。
- 指揮車(三菱LDA-V98W)を購入(更新)、消防本部に配備する。
- 広報車(三菱EBD-DS64V)を購入、金山支署に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第46期・第47期)に職員2名を派遣する。
- 指導救命士養成研修のため、救命救急九州研修所に職員1名を派遣する。
- 消防救急デジタル無線の運用を開始する。

〈平成27年度〉

- 消防職員4名を採用する。(総員118名)
- 連絡車(三菱HBD-DS17V)を更新、西支署に配備する。

- 司令車(トヨタDBA-GRX135)を購入(更新)、消防本部に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第49期)に職員1名を派遣する。
- 消防大学校救助科(第71期)に職員1名入校する。(2ヶ月間)

〈平成28年度〉

- 消防長退職に伴い、消防次長兼消防署長が消防長に就任する。
- 消防職員3名を採用する。(総員119名)
- 全国消防救助技術大会(松山市)において「ほふく救出の部」に出場、入賞する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第50期・第51期)に職員3名を派遣する。
- 消防大学校予防科(第100期)に職員1名入校する。
- 高規格救急自動車(トヨタハイメディック)1台を、アステラス製薬株式会社より寄贈、北支署に配備する。
- 西支署の竣工式を実施する。
- 指導救命士養成研修のため、救命救急九州研修所に職員1名を派遣する。

〈平成29年度〉

- 全国消防救助技術大会(利府町)において「ロープ応用登はんの部」に出場、入賞する。
- 水槽付消防ポンプ自動車(積載水量5,000ℓ いすゞ2PG-PTS90S)を購入(更新)、消防署に配備する。
- 消防ポンプ自動車(CD-I型 1,600ℓ水槽付 日野TKG-XZU685M)を購入(更新)、南支署に配備する。
- 事務連絡車(三菱HBD-DS17V)を購入し、消防本部に配備する。
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第52期・第53期)に職員2名を派遣する。
- 指導救命士養成研修のため、救命救急九州研修所に職員1名を派遣する。

〈平成30年度〉

- 消防職員3名を採用する。(総員119名)
- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第54期・第55期)に職員2名を派遣する。
- 全国消防救助技術大会(京都市)において「ほふく救出の部」に出場。(全国大会中止)
- 消防ポンプ自動車(CD-I型 1,500ℓ水槽付 日野TKG-XZU685M)を購入(更新)、東支署に配備する。
- 高規格救急自動車(トヨタハイメディック)1台を、消防署(更新)に配備する。
- 搬送2(トヨタQDF-GDH226K)を購入(更新)、消防署に配備する。

〈令和元年度〉

- 消防職員3名を採用する。(総員119名)

- 救急救命士の国家資格取得のため、救急救命東京研修所(第56期・第57期)に職員2名を派遣する。
- 指導救命士養成研修のため、救命救急九州研修所に職員1名を派遣する。
- 全国消防救助技術大会(岡山市)において「ロープ応用登はんの部」に出場、入賞する。
- 全国消防救助技術大会(岡山市)において「はしご登はんの部」に出場、入賞する。
- 令和元年10月11、12日、大型台風19号が発生、大雨により豪雨災害となった。被災地の宮城県丸森町に緊急消防援助隊として、救助隊、後方支援隊を第1次から第2次まで、延べ2隊、14名を派遣する。
- 消防ポンプ自動車(CD-I型 1,300ℓ水槽付 日野TKG-XZU685M)を購入(更新)、西支署に配備する。
- 消防ポンプ自動車(CD-I型 日野TKG-XZU685M)を購入(更新)、本署に配備する。